

## 2022 年度第 3 回価格審査会の開催について

2022 年度第 3 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2022 年 6 月 14 日(火)
場 所	6 階大会議室
委 員	<p>田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 シニアエンジニア</p> <p>鈴木 孝之 東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長</p> <p>鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長</p> <p>辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長</p> <p>橋本 雅宏 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長</p>
当 会	<p>共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅</p> <p>建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久</p> <p>監査審査室 室長：今井 豊</p> <p>調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲</p>

2022 年度第 2 回価格審査会議事録(案) 確認

2022 年度第 3 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1.	<p>「建設物価」7月号、「Web 建設物価」7月号、「土木コスト情報」夏号、「建築コスト情報」夏号 ・価格が上伸した資材（工事費）</p> <p><b>【Web 建設物価】</b> 月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼矢板、鋼管ぐい、鋼管、鋼板（全都市）、異形棒鋼(北海道地区)、ねじ節鉄筋(北海道地区)、H形鋼(札幌市ほか 55 都市)、セメント（釧路市ほか 18 都市）、レディーミクストコンクリート（北見市ほか 54 都市）、コンクリート用骨材（函館市ほか 74 都市）、道路用砕石(函館市ほか 52 都市)、再生砕石(函館市ほか 23 都市)、コンクリート型枠用合板（全都市）、アスファルト混合物（旭川市ほか 132 都市）、ストレートアスファルト（全都市）ほか</p> <p><b>【土木コスト情報】</b> ＜市場単価＞防護柵設置工（落石防止網）（全都道府県）、道路標識設置工（全都道府県）、橋梁用埋設型伸（全都道府県）、継手装置設置工（全都道府県）、コンクリート表面処理工（ウォータージェット工）（全都道府県） ＜土木工事標準単価＞区画線工（全都道府県）、高視認性区画線工（全都道府県）ほか</p> <p><b>【建築コスト情報】</b> ＜市場単価＞鉄筋工事（関東・九州地区）、圧接工事（九州地区）、型枠工事（九州地区を除く全都市）、シーリング工事（全都市）、吹付工事（全都市）、ガラス工事（全都市）、塗装工事（全都市）、内装床工事（全都市）、内装ボード工事（全都市） ＜標準施工単価＞外壁改修工事（全都市）、塗装改修工事（全都市）ほか</p>

・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

伸銅品(全都市)、電線（全都市）、鉄スクラップ(全都市)、非鉄スクラップ（全都市）ほか

【土木コスト情報】

<土木工事標準単価>橋梁塗装工（全都道府県）、構造物とりこわし工（福島・愛媛県除く全都道府県）、コンクリートブロック積工（福島・愛媛・高知県除く全都道府県）ほか

2. 比較資料

・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	レディーミクストコンクリート価格で2,000円から4,000円の大幅上伸が四国地区と九州地区に集中しているのはなぜか。	明確な因果関係を示すことは難しいが、今月大幅に値上がりした地区は総じて員外社が少ない地区である。
質問 2	セメントの仙台地区が急激に値上がりしているが、どのような状況か。	全国的には今年度に入り概ね1000円値上がりし、その後は継続的な交渉が続いている状況にある。一方、仙台地区においては値上がりが遅れたものの、今月一気に2,000円が浸透したという状況である。
質問 3	鉄スクラップ価格の直近の下落は鋼材価格の上昇を抑える力になっているのか。	鉄スクラップは鉄筋やH形鋼といった鋼材の主原料のため、鉄スクラップ価格の下落は鋼材価格を押し下げる大きな要因となっている。
質問 4	鉄筋工事で「労務需給のひっ迫で値上がりした」と説明があった。労務需給がひっ迫している物件的な背景を教えてください。	都市部では大型再開発物件やマンション工事が多いことから労務需給がひっ迫した。人手不足の都市部に周辺地区の鉄筋工が応援に行くため、周辺地区もひっ迫し値上がりした。
質問 5	舗装用石灰石粉の北海道と一部の地域だけ値上がりしている。理由に「輸送コストの上昇に伴うメーカー値上げが浸透」とあるが、これはこの地域だけの状況なのか。	輸送コストの上昇は全国的な状況でありこの地域だけではない。しかし運搬距離や需給動向などの市場環境の違いから地域ごとに異なる値動きとなっている。先月は和歌山地区のみ値上がりした。
質問 6	推進管関連の広島市が値上がりしている。理由に「原材料の値上がりに伴うメーカーの価格改定を受け、上伸」とあるが、このメーカーとは広島市のメーカーなのか。	広島市のメーカーである。

<p>質問 7</p>	<p>鉄スクラップは値動きが激しい資材という印象がある。今月は値下がりしたとのことだが、現在の状況を教えてほしい。</p>	<p>ウクライナ侵攻開始時の価格水準に戻ったのが現在の状況である。ロシアは鉄スクラップの発生地であるが、ウクライナ侵攻により供給が滞るのではないかとこの観測から国際相場が跳ね上がった。しかしロシア産スクラップの供給はそれほど枯渇しておらず、相場が落ち着きを取り戻し元の価格水準に戻っている。</p>
<p>質問 8</p>	<p>土木コスト情報の市場単価では値上がりの理由に「労務のひっ迫」や「人件費の上昇」と「労務」について言及されている。一方、建築コスト情報の値上がり理由に鉄筋工事以外には「労務」に関する記載がみられない。建築コスト情報の市場単価の値上がりには「労務」の影響はないのか。</p>	<p>今月の建築コスト情報で市場単価が値上がりした工種は、鉄筋工を除き材工共工種であった。なお、材工共工種の値上がりは材料費の上伸が主要因であったため、このような記載としており、鉄筋工は手間のみでの掲載のため労務に言及している。再開発工事が本格化している東京地区等では、労務需給が各工種で逼迫しているという声徐徐に上がってきており、今後は材料だけでなく労務の影響も出てくるとみている。</p>
<p>質問 9</p>	<p>タイルの標準品について「建設物価」に材料価格、「建築コスト情報」に材工共価を載せていると思うが、ほとんど価格変動がない。タイルの材料価格、材工共価格は両方とも値上げされている状況だと思うがどうか。また、タイルの標準品とはどのようなものなのか、書籍に具体例の掲載はあるのか。</p>	<p>タイルの材料価格・材工共価格も今のところ横ばいである。値上がりを注視しているが、結果的に価格の上伸は確認できていない。標準品の定義は、注記に「メーカーが使いやすい形状や色合いのタイルをスタンダード品として常時在庫している製品であり、グリーン購入法適合品も含む」と記載している。学校などの公共建築で使われるタイルを想定している。具体的例の記載は検討する。</p>
<p>質問 10</p>	<p>レディーミクストコンクリートの値上がり大きいところでは4,000円と大幅である。このような大幅な値上がりでメーカーの値上げが全額浸透した地域の場合、しばらくは値上がりしないと考えるよいか、それともすぐにもう一段の価格交渉が始まるのか、過去の事例も含めてどうなのか。</p>	<p>メーカーの値上げが全額浸透したら、しばらくは値上げ交渉がないため当面は落ち着くとみられる。しかし、セメント価格や社会情勢に大きな変化があれば、新たな値上げを打ち出して、再び交渉に入るだろう。一般的にはメーカーの値上げ額の一部が浸透した場合、全額値上げ浸透を目指して交渉が続くケースが多数である。</p>

質問 11	銅・アルミ地金・ニッケルなどの価格は、海外市場取引で決まるのか。その場合ドル建だとすると円安が影響して二重で値上がりするのか。	銅・アルミ地金・ニッケルなどの輸入原材料価格は、ほぼ海外相場の影響で決定するが、円相場の影響も非常に受ける。現状、銅・アルミ地金・ニッケルともに価格は下落しているが、円相場の影響で若干相殺されている。これが上昇に転じることになると、円安と相場上昇が相まって値上がり幅が大きくなる。
質問 12	土木コスト情報の区画線工に「機械損料の上昇」とある。機械損料の見直しはいつ頃の頻度で行われるのか。	機械損料は2年に1回改訂されており、今年度は改訂年度であった。機械損料は例年4月公表であるため、発刊スケジュール的に土木コスト情報では7月号で反映している。
審議結果	「建設物価」7月号、「Web 建設物価」7月号、「土木コスト情報」夏号、「建築コスト情報」夏号の価格動向に問題はなかった。	

以 上